

## 付録 2 損傷程度の評価区分

## ① 腐食

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

腐食は、(塗装やメッキなどによる防食措置が施された。)普通鋼材では集中的に錆が発生している状態、又は錆が極度に進行し板厚減少や断面欠損(以下「板厚減少等」という。)が生じている状態をいう。耐候性鋼材の場合には、保護性錆が形成されず異常な錆が生じている場合や、極度な錆の進行により板厚減少等が著しい状態をいう。

腐食しやすい箇所は、漏水の多い桁端部、水平材上面など滞水しやすい箇所、支承部周辺、通気性、排水性の悪い連結部、泥、ほこりの堆積しやすい下フランジの上面、溶接部等である。

### (2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評 価 の 目 安			区分
錆の有無	錆の深さ	錆の広がり	
なし	—	—	a
あり	表面のみ	局部的	b
		広範囲	c
	板厚減少、鋼材表面の著しい膨張	局部的	d
		広範囲	e

(例)

<b>損傷区分 b</b>  主桁の一部に表面的な錆が発生している	<b>損傷区分 c</b>  主桁下フランジ全体に表面的な錆が発生している
<b>損傷区分 d</b>  主桁端部に局所的だが板厚減少を伴う錆が発生している	<b>損傷区分 e</b>  主桁全体に板厚減少を伴う著しい錆が発生している

耐候性鋼材の橋梁については、次の区分によるものとする。

評 価 の 目 安		区分
錆の状態	錆の広がり	
一様な錆が発生している*	—	a
うろこ状の錆が発生している	—	c
層状剥離、板厚減少等が発生している	局部的	d
	広範囲	e

※ 適切な環境のもとで耐候性鋼材の表面に形成される緻密なさびをいう。

なお、架設後数年以内の一般的なさびむら（さびのむらの程度が少なく、時間とともに消滅する範囲内のもの。）を含む。

(例)



## ② 亀裂

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

鋼材に生じた亀裂である。鋼材の亀裂は、応力集中が生じやすい部材の断面急変部や溶接接合部などに多く現れる。

亀裂は鋼材内部に生じる場合もあり、この場合は外観性状からだけでは検出不可能である。

亀裂の大半は極めて小さく、溶接線近傍のように表面性状がなめらかでない場合には、表面きずや錆等による凹凸の陰影との見分けがつきにくいことがある。なお、塗装がある場合に表面に開口した亀裂は、塗膜われを伴うことが多い。

### (2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし 塗膜割れ程度（長さが短く、錆が出ていない）	a
明らかな亀裂を生じている 亀裂の疑いのある塗膜割れが生じている（長さが長く、錆がでている）	e

(例)

損傷区分a	損傷区分a
 <p>極めて短い亀裂</p>	 <p>塗膜割れと考えられるもの</p>
損傷区分e	損傷区分e
 <p>明らかな線状の亀裂</p>	 <p>亀裂の疑いが否定できない塗膜割れ</p>



損傷区分e



桁端部に発生した亀裂

損傷区分e



ゲルバー桁掛け違い部に発生した亀裂

### ③ ボルトの脱落

(1) 一般的性状・損傷の特徴

ナットやボルトが脱落している状態をいう。ボルトが折損しているものも含む。



ここでは、普通ボルト、高力ボルト、リベット等の種類に関係なく、全てのボルト、リベットを対象としている。

(2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	a
ボルトの脱落がある（本数の多寡によらない）	e

(例)

損傷区分e	損傷区分e
	
ボルトが脱落している	ボルトが破断し脱落している

#### ④ 破断

(1) 一般的性状・損傷の特徴



鋼部材が完全に破断しているか、破断しているとみなせる程度に断裂している状態をいう。  
床組部材や対傾構・横構などの2次部材などに多く見られる。

(2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	a
破断している（部材がつながっている場合は亀裂）	e

(例)

損傷区分e	損傷区分e
	
対傾構のガセットプレートが破断している	横構のガセットプレートが破断している

## ⑤ ひびわれ

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

コンクリート部材の表面にひびわれが生じている状態をいう。

### (2) 損傷パターンの区分

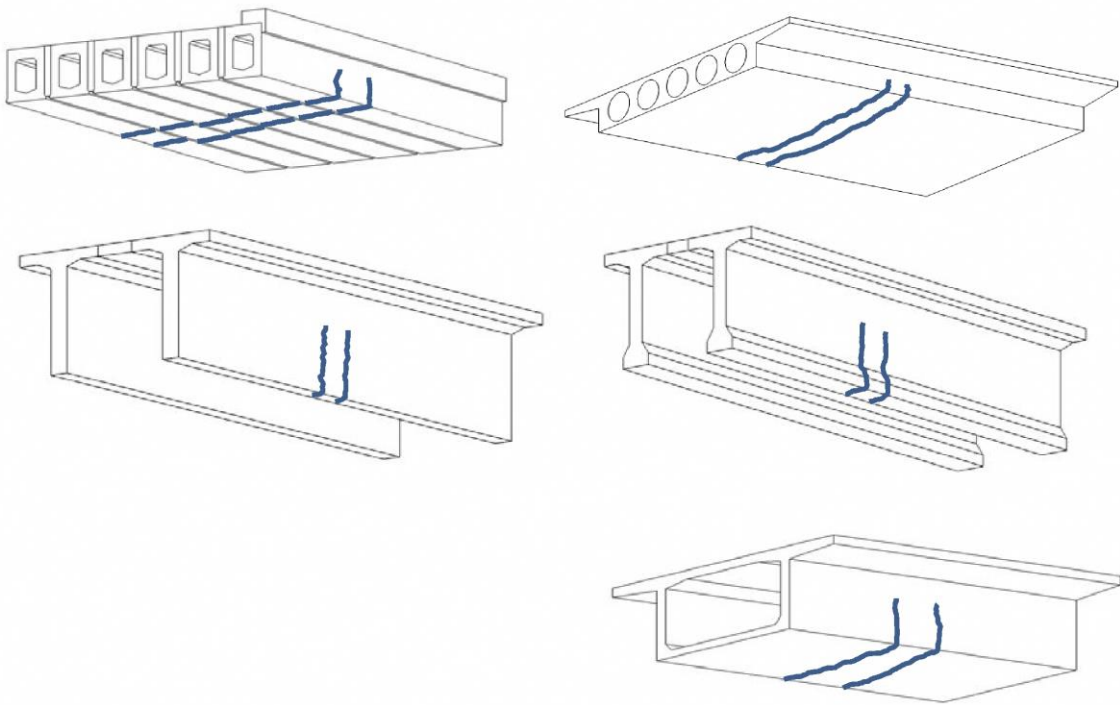
評価にあたっては、損傷パターンを下表によって区分し、対応するパターンの番号を記録する。

#### a) 上部構造（RC，PC共通）

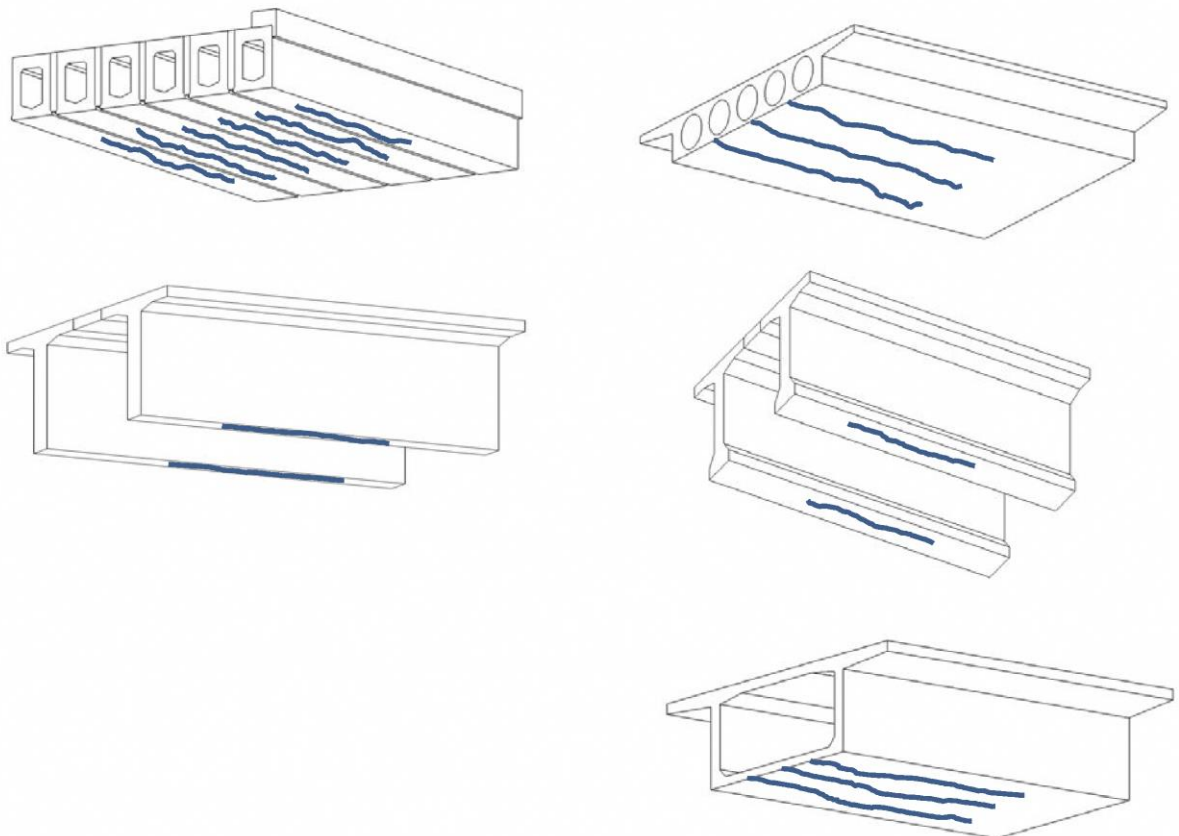
位 置	ひ び わ れ パ タ ー ン
支間中央部	①主桁直角方向の桁下面又は側面の鉛直ひびわれ
	②主桁下面縦方向ひびわれ
支間1/4部	③主桁直角方向の桁下面又は側面の鉛直又は斜めひびわれ
支 点 部	④支点付近の腹部に斜めに発生しているひびわれ
	⑤支承上の桁下面又は側面に鉛直に発生しているひびわれ
	⑥支承上の桁側面に斜めに発生しているひびわれ
	⑦ゲルバー部のひびわれ
	⑧連続桁中間支点部の上側の鉛直ひびわれ
そ の 他	⑨亀甲状，くもの巣状のひびわれ
	⑩桁の腹部に規則的な間隔で鉛直方向に発生しているひびわれ
	⑪ウェブと上フランジの接合点付近の水平方向のひびわれ
	⑫桁全体に発生している斜め45°方向のひびわれ
支間1/4部又は は支点部	⑬桁下面又は側面の橋軸方向ひびわれ（⑬に該当するものは除く。）
	⑭上フランジのひびわれ
支間全体	⑮支間全体で桁腹部に発生している水平方向ひびわれ
横 桁	⑯横桁部のひびわれ



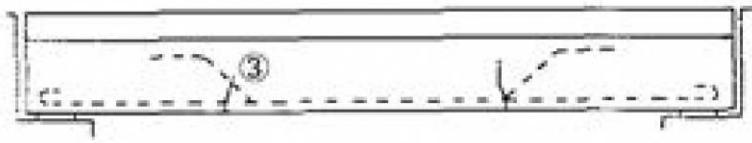
①支間中央部、主桁直角方向の桁下面又は側面の鉛直ひびわれ



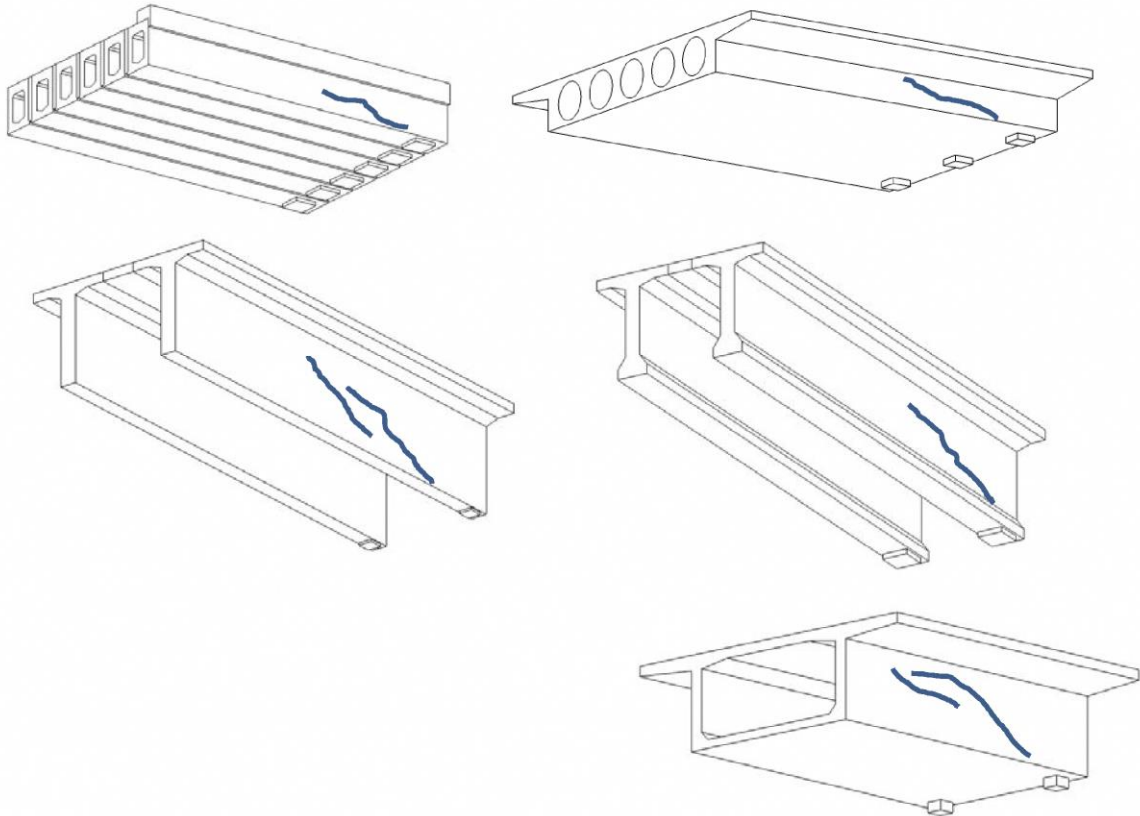
②支間中央部、主桁下面縦方向ひびわれ



③支間 1/4 部、主桁直角方向の桁下面又は側面の鉛直又は斜めひびわれ

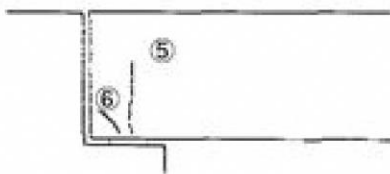


④支点部、支点付近の腹部に斜めに発生しているひびわれ

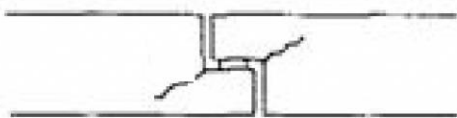


⑤支点部、支承上の桁下面又は側面に鉛直に発生しているひびわれ

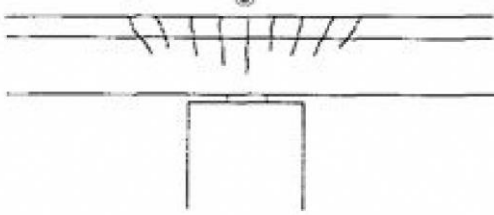
⑥支点部、支承上の桁側面に斜めに発生しているひびわれ



⑦ゲルバー部のひびわれ



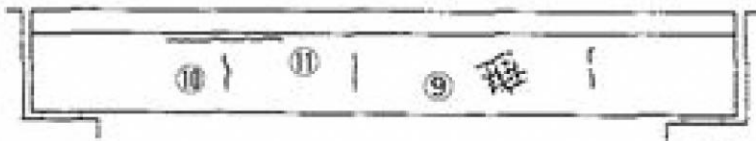
⑧ 支点部、連続桁中間支点部の上側の鉛直ひびわれ



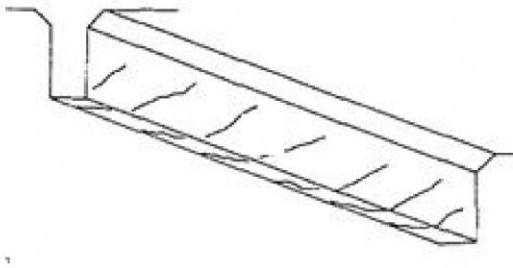
⑨ 亀甲状、くもの巣状のひびわれ

⑩ 桁の腹部に規則的な間隔で鉛直方向に発生しているひびわれ

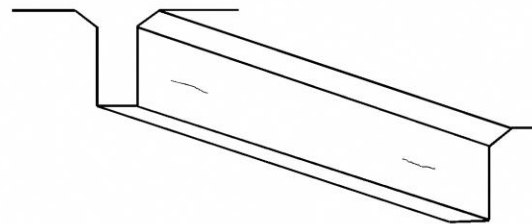
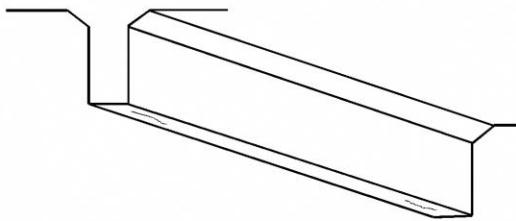
⑪ ウェブと上フランジの接合点付近の水平方向のひびわれ



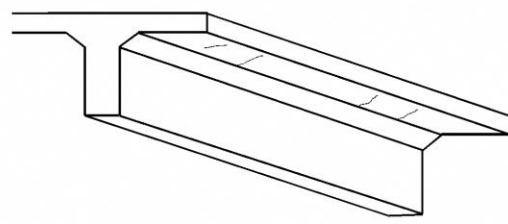
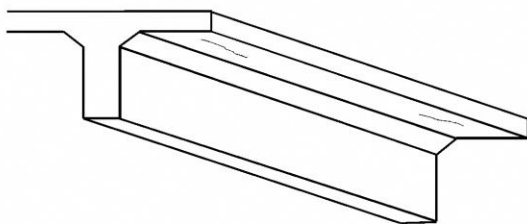
⑫ 桁全体に発生している斜め 45° 方向のひびわれ



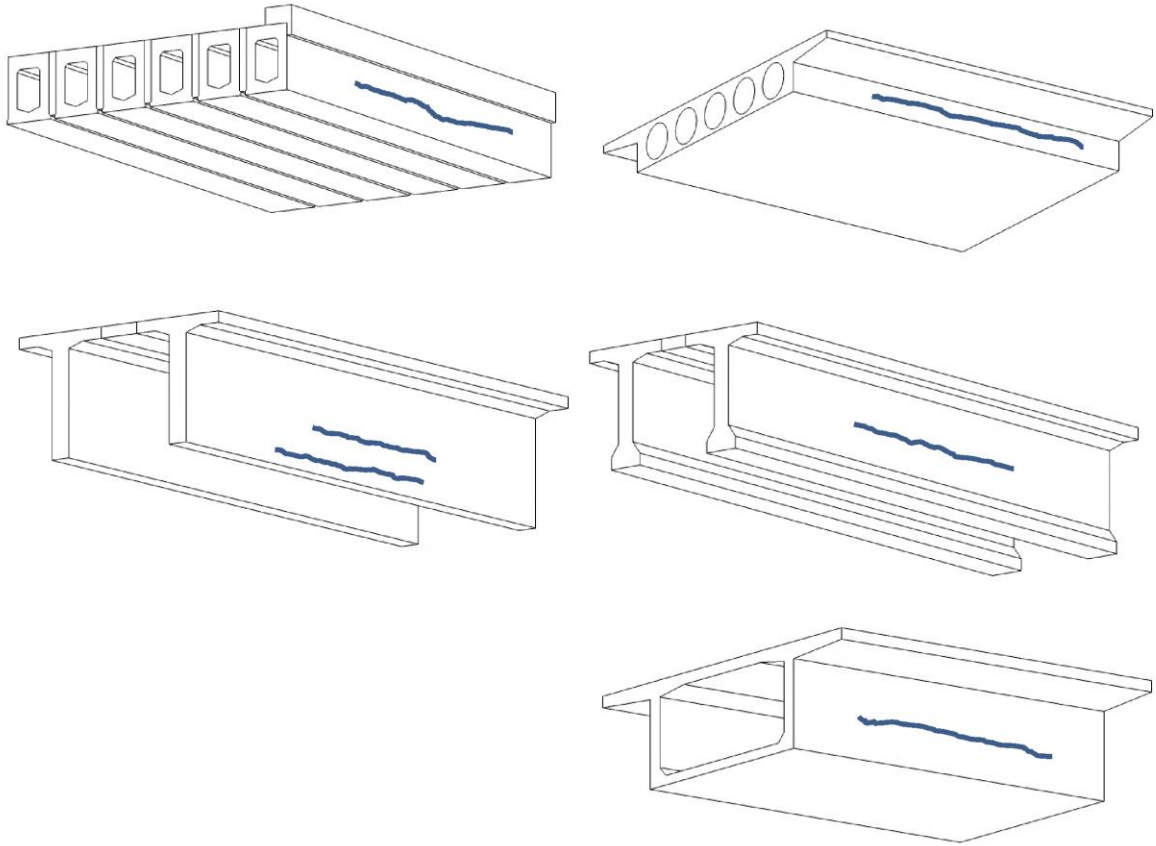
⑲ 支間 1 / 4 部又は支点部、桁下面又は側面の橋軸方向ひびわれ (⑩に該当するものは除く。)



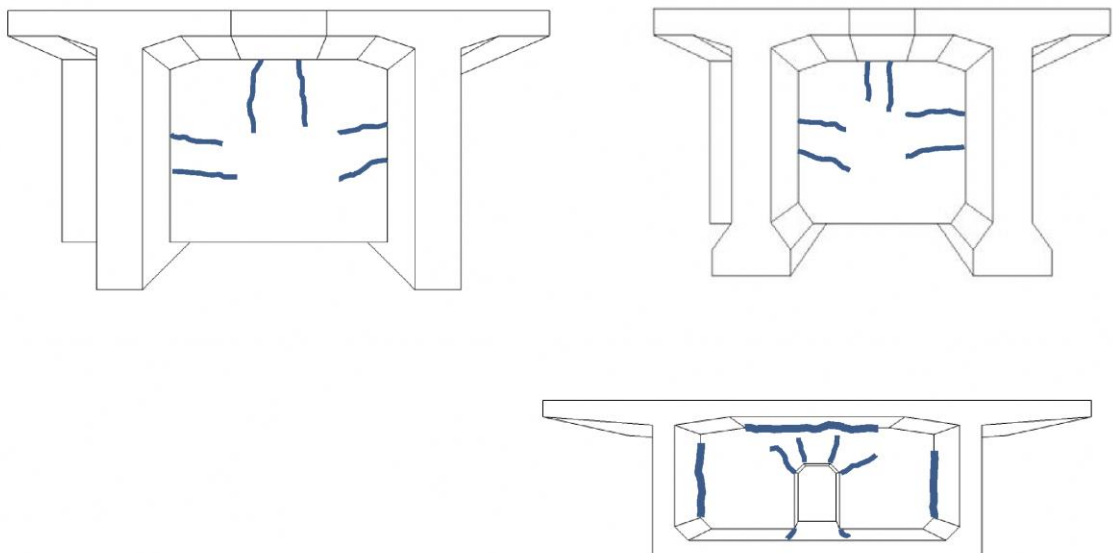
⑳ 支間 1 / 4 部又は支点部、上フランジのひびわれ



③支間全体：支間全体で桁腹部に発生している水平方向ひびわれ



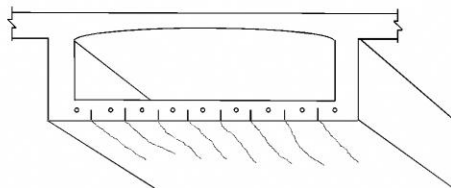
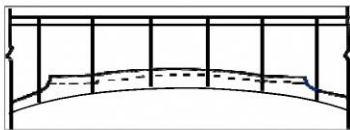
④横桁部のひびわれ



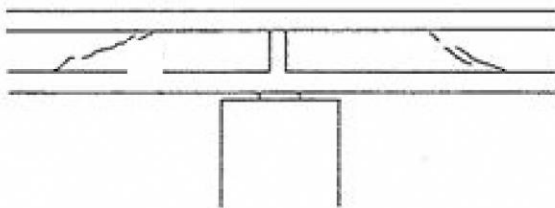
b) 上部構造（PCのみ）

位 置	ひびわれパターン
支間中央部	⑬変断面桁の下フランジのPC鋼材に沿ったひびわれ
	⑭主桁上フランジ付近のひびわれ
支間1/4部	⑮PC連続中間支点の変局点付近のPC鋼材に沿ったひびわれ
	⑯PC連続中間支点の変曲点付近のPC鋼材に直交したひびわれ
支 点 部	⑰主桁の腹部に水平なひびわれ
	⑱連結横桁部（RC 構造部）のひびわれ
そ の 他	⑲PC鋼材定着部又は偏向部付近のひびわれ
	⑳PC鋼材が集中している付近のひびわれ
	㉑シーすに沿って生じるひびわれ
	㉒セグメント接合部のすき・離れ
	㉓断面急変部のひびわれ

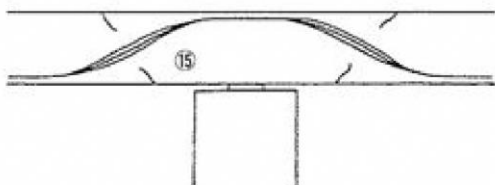
⑬支間中央部、変断面桁の下フランジのPC鋼材に沿ったひびわれ



⑭支間1/4部、PC連続中間支点の変局点付近のPC鋼材に沿ったひびわれ

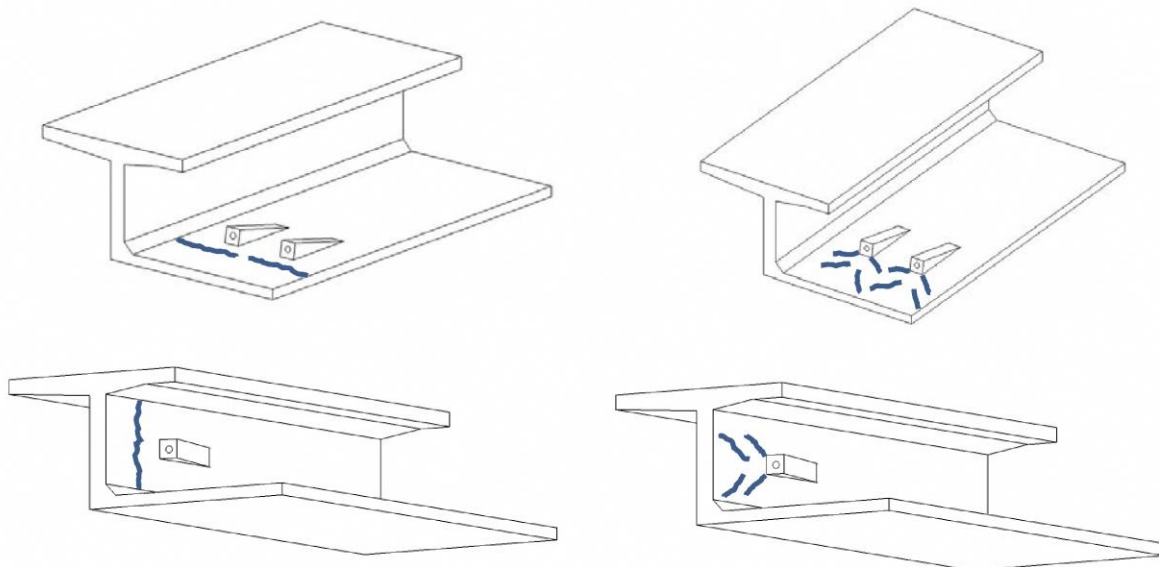


⑮支間1/4部、PC連続中間支点の変局点付近のPC鋼材に直交したひびわれ

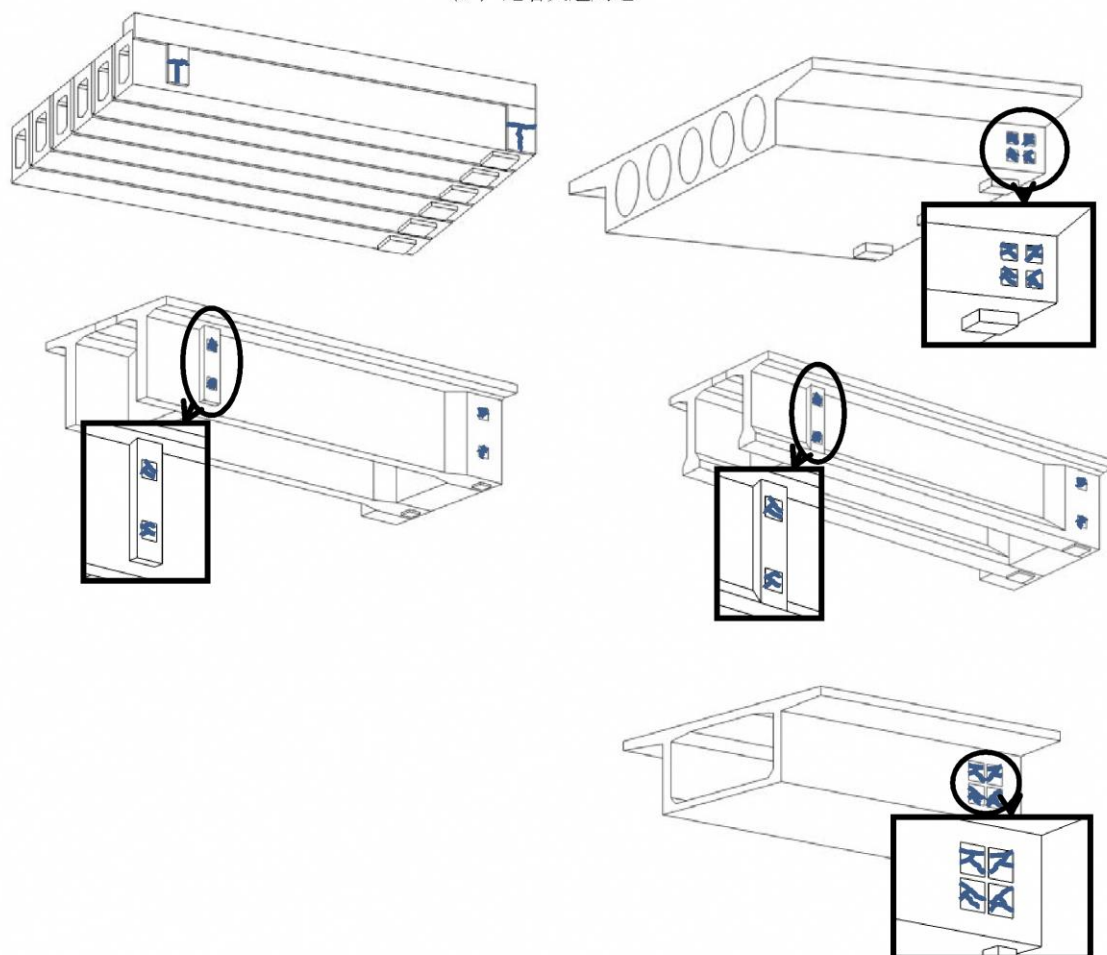




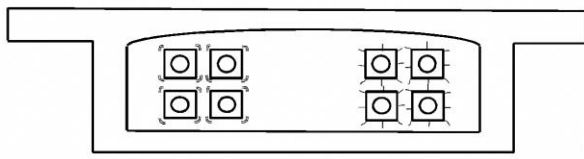
⑩ P C 鋼材定着部又は偏向部付近のひびわれ



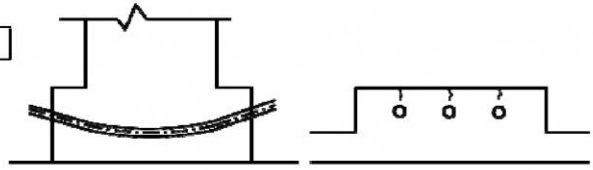
(ア) 定着突起周辺



(イ) 後埋めコンクリート部

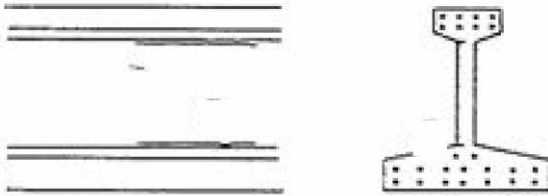


(ウ) 外ケーブル定着部

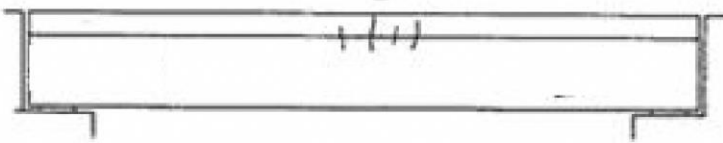


(エ) 偏向部

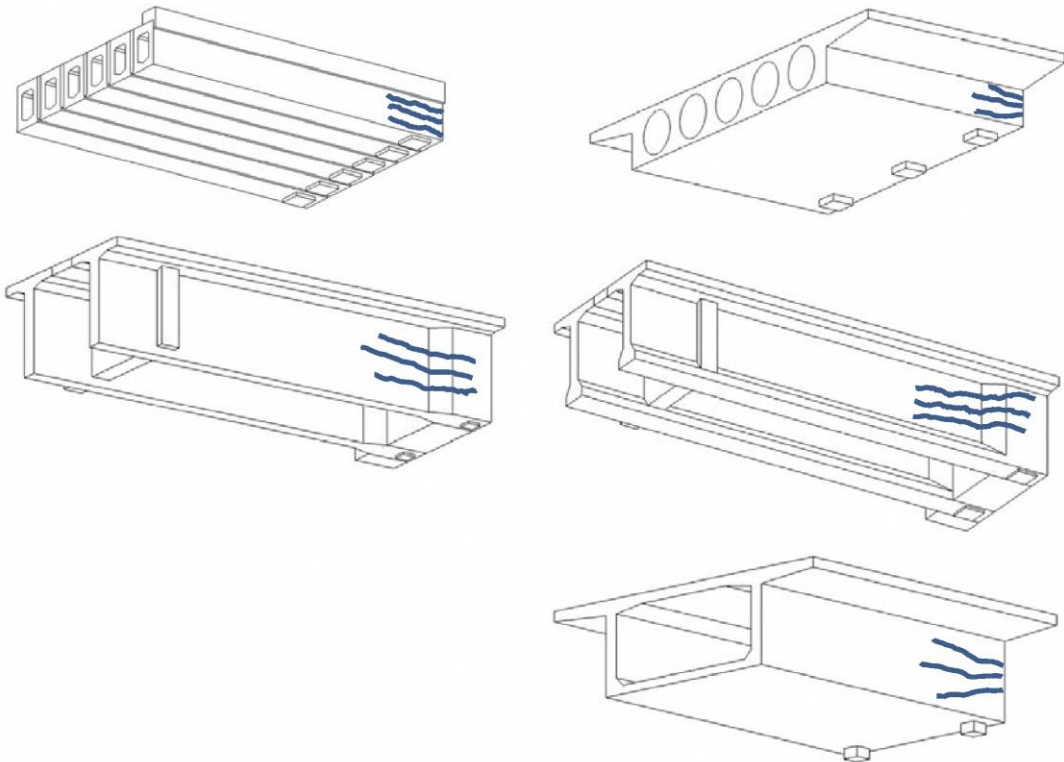
⑰ PC鋼材が集中している付近のひびわれ



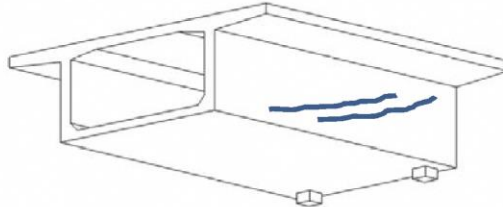
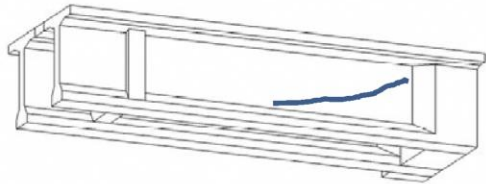
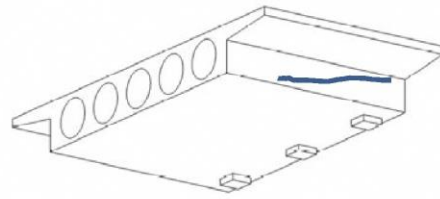
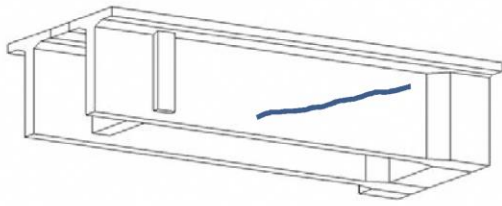
⑱ 支間中央部、主桁上フランジ付近のひびわれ



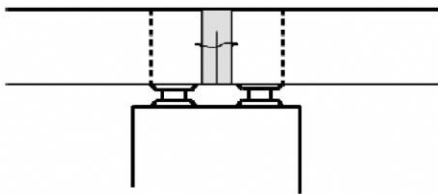
⑲ 支点部、主桁の腹部に水平なひびわれ



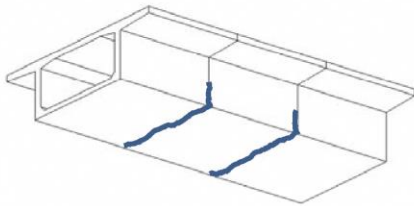
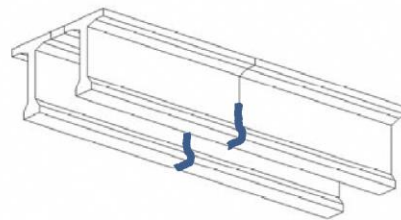
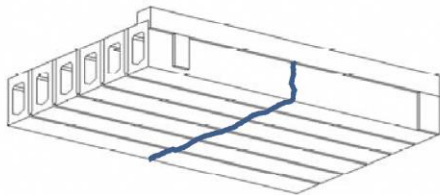
⑳シースに沿って生じるひびわれ



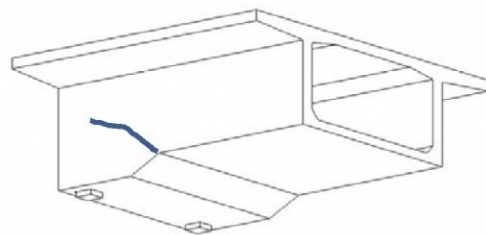
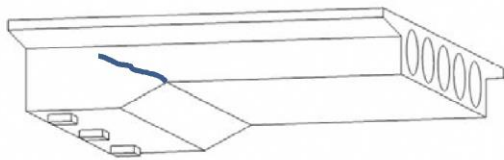
㉕連結横桁部（RC 構造部）のひびわれ



㉖セグメント接合部のすき・離れ



㉗断面急変部のひびわれ



c) 下部構造

位 置	ひびわれパターン
橋台全面	①規則性のある鉛直又は斜めひびわれ ②打ち継ぎ目に鉛直な又は斜めのひびわれ ③鉄筋段落とし付近のひびわれ ④亀甲状、くもの巣状のひびわれ
支承下部	⑤支承下面付近のひびわれ
T型橋脚	②打ち継ぎ目に鉛直な又は斜めのひびわれ ③鉄筋段落とし付近のひびわれ ④亀甲状、くもの巣状のひびわれ ⑥張り出し部の付け根上側のひびわれ ⑦橋脚中心上部の鉛直ひびわれ ⑧張り出し部の付け根下側のひびわれ ⑬側面の鉛直方向ひびわれ
ラーメン橋脚	④亀甲状、くもの巣状のひびわれ ⑨柱上下端・ハンチ全周にわたるひびわれ ⑩柱全周にわたるひびわれ ⑪柱上部・ハンチ全周にわたるひびわれ ⑫はり中央部下側のひびわれ
<p>The image contains several technical drawings illustrating crack patterns in bridge structures. The top row shows a cross-section of a pier with cracks 1-4 and a T-shaped pier with cracks 6-8. The bottom row shows a pier with crack 5, a T-shaped pier with cracks 9-12, and a pier with crack 13.</p>	

(3) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評 価 の 目 安		区 分
最大ひびわれ幅に着目した程度	最小ひびわれ間隔に着目した程度	
損傷なし		a
小	小	b
小	大	c
中	小	c
中	大	d
大	小	d
大	大	e

a) 最大ひびわれ幅に着目した程度

程度	一般的性状
大	ひびわれ幅が大きい (RC 構造物 0.3mm 以上、PC 構造物 0.2mm 以上)
中	ひびわれ幅が中位 (RC 構造物 0.2mm 以上 0.3mm 未満、PC 構造物 0.1mm 以上 0.2mm 未満)
小	ひびわれ幅が小さい (RC 構造物 0.2mm 未満、PC 構造物 0.1mm 未満)

b) 最小ひびわれ間隔に着目した程度




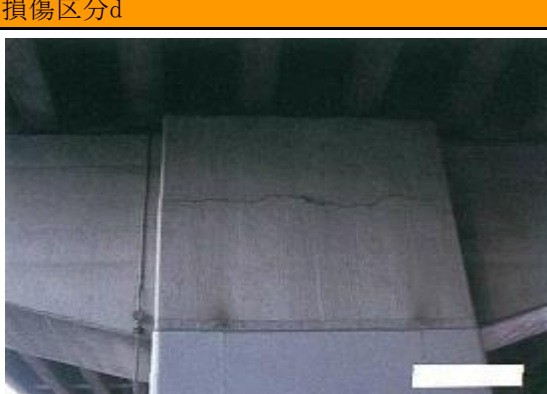
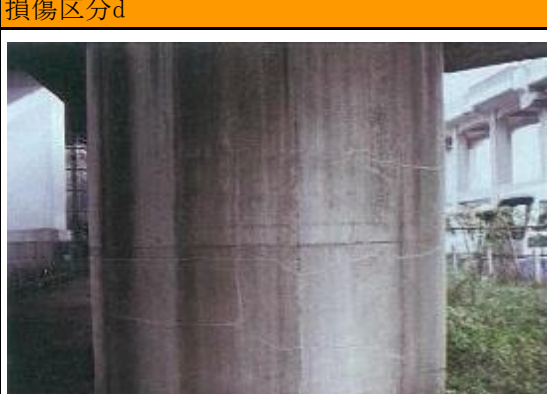

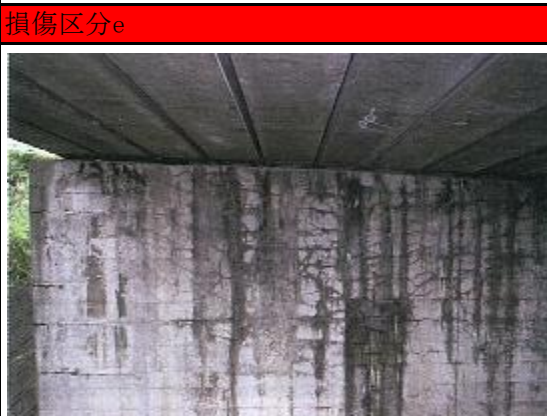
程度	一般的性状
大	ひびわれ間隔が小さい (最小ひびわれ間隔が概ね 0.5m 未満)
小	ひびわれ間隔が大きい (最小ひびわれ間隔が概ね 0.5m 以上)



(例 上部工)

損傷区分b	損傷区分c
	
ひびわれ幅が小さく、ひびわれ間隔が大きい	ひびわれ幅が小さく、ひびわれ間隔が小さい
損傷区分d	損傷区分d
	
ひびわれ幅が大きく、ひびわれ間隔が大きい	ひびわれ幅が大きく、ひびわれ間隔が大きい
損傷区分e	損傷区分e
	
ひびわれ幅が大きく、ひびわれ間隔が小さい	ひびわれ幅が大きく、ひびわれ間隔が小さい

(例 下部工)

<b>損傷区分b</b>	
 <p>ひびわれ幅が小さく、ひびわれ間隔が大きい</p>	
<b>損傷区分c</b>	<b>損傷区分c</b>
 <p>ひびわれ幅が小さく、ひびわれ間隔が小さい</p>	 <p>ひびわれ幅が小さく、ひびわれ間隔が小さい</p>
<b>損傷区分d</b>	<b>損傷区分d</b>
 <p>ひびわれ幅が大きく、ひびわれ間隔が大きい</p>	 <p>ひびわれ幅が大きく、ひびわれ間隔が大きい</p>
<b>損傷区分e</b>	<b>損傷区分e</b>
 <p>ひびわれ幅が大きく、ひびわれ間隔が小さい</p>	 <p>ひびわれ幅が大きく、ひびわれ間隔が小さい</p>

## ⑥ 漏水・遊離石灰

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

コンクリートの打継目やひびわれ部等から、水や石灰分の滲出や漏出が生じている状態をいう。

### (2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	a
ひびわれから漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はほとんど見られない	c
ひびわれから遊離石灰が生じているが、錆汁はほとんど見られない。	d
ひびわれから著しい漏水や遊離石灰が生じている。あるいは漏水に著しい泥や錆汁の混入が認められる。	e

(例)

損傷区分c	損傷区分d
 <p>漏水のみが生じている</p>	 <p>ひびわれからの遊離石灰。錆汁は認められない。</p>
損傷区分e	損傷区分e
 <p>遊離石灰に泥の混入が認められる。</p>	 <p>遊離石灰が著しく、つらら状になっている。</p>



## ⑦ 剥離・鉄筋露出

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

コンクリート部材の表面が剥離している状態を剥離、剥離部で鉄筋が露出している場合を鉄筋露出という。

### (2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	a
剥離のみが生じている。	c
鉄筋が露出しているが、鉄筋の腐食は軽微である。	d
鉄筋が露出しており、鉄筋が著しく腐食している。	e

(例)

損傷区分c	損傷区分d
 <p>剥離のみが生じている</p>	 <p>コンクリートの剥離と軽微な鉄筋腐食が生じている。</p>
損傷区分e	損傷区分e
 <p>コンクリートの剥離と著しい鉄筋腐食が生じている。</p>	 <p>コンクリートの剥離と著しい鉄筋腐食が生じている。</p>

## ⑧ 抜け落ち

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

コンクリート床版(間詰めコンクリートを含む。)からコンクリート塊が抜け落ちることをいう。床版の場合には、亀甲状のひびわれを伴うことが多い。

間詰めコンクリートや張り出し部のコンクリートでは、周囲に顕著なひびわれを伴うことなく鋼材間でコンクリート塊が抜け落ちることもある。

### (2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	a
コンクリート塊の抜け落ちがある	e

(例)

損傷区分a	損傷区分a
 <p>著しいひびわれが生じているので「床版ひびわれ」で評価する</p>	 <p>著しい鉄筋露出が生じているので「剥離・鉄筋露出」で評価する</p>
損傷区分e	損傷区分e
 <p>抜け落ちた事例</p>	 <p>抜け落ちた事例</p>



## ⑨ 床版ひびわれ

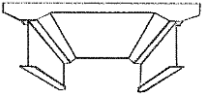
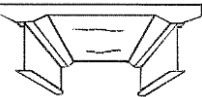
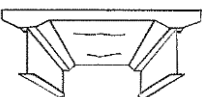
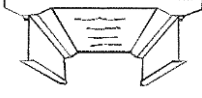
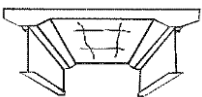
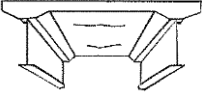
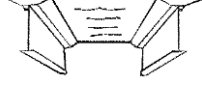
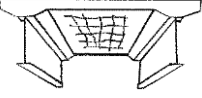
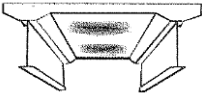
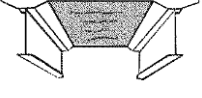
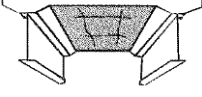
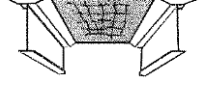
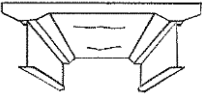

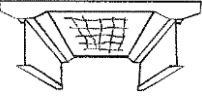
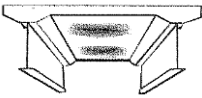
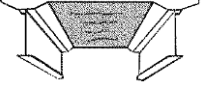
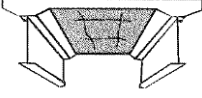
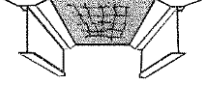
### (1) 一般的性状・損傷の特徴

鋼橋のコンクリート床版を対象としたひびわれであり、床版下面に一方向又は二方向のひびわれが生じている状態をいう。

また、コンクリート橋のT桁橋のウェブ間（間詰め部を含む。）、箱桁橋の箱桁内上面、中空床版橋及び箱桁橋の張り出し部のひびわれも対象である。

### (2) 損傷程度の評価区分

損傷程度の評価は、次の区分によるものとする。

評 価 の 目 安						区分
一方向ひびわれ			二方向ひびわれ			
性状	ひびわれ	漏水・遊離石灰	性状	ひびわれ	漏水・遊離石灰	
	損傷なし	なし	—	損傷なし	なし	a
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは主として一方向のみ</li> <li>最小ひびわれ間隔は概ね1m以上</li> <li>最大ひびわれ幅は0.05mm以下 (ヘアークラック程度)</li> </ul>	なし	—		なし	b
 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは主として1方向のみ</li> <li>ひびわれ間隔は問わない</li> <li>ひびわれ幅は0.1mm以下が主 (一部には0.1mm以上も存在)</li> </ul>	なし		<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは格子状</li> <li>格子の大きさは0.5m程度以上</li> <li>ひびわれ幅は0.1mm以下が主 (一部には0.1mm以上も存在)</li> </ul>	なし	c
 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは主として1方向のみ</li> <li>ひびわれ間隔は問わない</li> <li>最大ひびわれ幅は0.2mm以下が主 (一部には0.2mm以上も存在)</li> </ul>	なし		<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは格子状</li> <li>格子の大きさは0.5m～0.2m</li> <li>ひびわれ幅は0.2mm以下が主 (一部には0.2mm以上も存在)</li> </ul>	なし	d
 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは主として1方向のみ</li> <li>ひびわれ間隔は問わない</li> <li>最大ひびわれ幅は0.2mm以下が主 (一部には0.2mm以上も存在)</li> </ul>	あり	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは格子状</li> <li>格子の大きさは0.5m～0.2m</li> <li>ひびわれ幅は0.2mm以下が主 (一部には0.2mm以上も存在)</li> </ul>	あり	d
 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは主として1方向のみ</li> <li>ひびわれ間隔は問わない</li> <li>ひびわれ幅は0.2mm以上が目立ち、部分的な角落ちも見られる</li> </ul>	なし		<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは格子状</li> <li>格子の大きさは0.2m以下</li> <li>ひびわれ幅は0.2mm以上が目立ち、部分的な角落ちも見られる</li> </ul>	なし	e
 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは主として1方向のみ</li> <li>ひびわれ間隔は問わない</li> <li>ひびわれ幅は0.2mm以上が目立ち、部分的な角落ちも見られる</li> </ul>	あり	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびわれは格子状</li> <li>格子の大きさは0.2m以下</li> <li>ひびわれ幅は0.2mm以上が目立ち、部分的な角落ちも見られる</li> </ul>	あり	e

(例)

損傷区分b	損傷区分b
	
一方向ひびわれが主で格子状でない。	一方向ひびわれが主で格子状でない。
損傷区分c	損傷区分c
	
格子状直前のひびわれの状況。	格子状直前のひびわれの状況。
損傷区分d	損傷区分d
	
ひびわれ間隔0.5m~0.2m程度で格子状に発生	ひびわれ間隔0.5m~0.2m程度で格子状に発生
損傷区分e	損傷区分e
	
0.2m以下の間隔で格子状に発生。連続的な角落ち。	0.2m以下の間隔で格子状に発生。連続的な角落ち。

## ⑩ PC 定着部の異常

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

PC鋼材の定着部のコンクリートに生じたひびわれから錆汁が認められる状態、又はPC鋼材の定着部のコンクリートが剥離している状態をいう。

ケーブルの定着部においては、腐食やひびわれなどの損傷が生じている状態をいう。

斜張橋やエクストラドーズド橋、ニールセン橋、吊橋などのケーブル定着部の損傷も対象とする。また、定着構造の材質にかかわらず、定着構造に関わる部品（止水カバー、定着ブロック、定着金具、緩衝材など。）の損傷の全てを対象として扱う。

### (2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	a
PCケーブル定着部の損傷（程度によらない） PCケーブルの損傷	e

(例)

損傷区分e	損傷区分e
	
定着部のコンクリートの錆汁	定着部のコンクリートの錆汁
損傷区分e	損傷区分e
	
定着コンクリートが剥離し、鋼材が腐食している	定着コンクリートが剥離し、PC鋼材が抜け出している



## ⑪ 路面の凹凸

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

衝撃力を増加させる要因となる路面に生じる橋軸方向の凹凸や段差をいう。

### (2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	a
20mm程度未満（走行に支障がない程度）の段差がある	e
20mm程度以上（走行に支障があり明らかに分かる程度）の段差がある	

(例)

損傷区分a	損傷区分e
 <p>20mm未満の段差がある</p>	 <p>20mm以上の段差がある</p>
損傷区分e	
 <p>20mm以上の段差がある</p>	

## ⑫ 支承の機能障害

### (1) 一般的性状・損傷の特徴

当該支承の有すべき荷重支持や変位追従などの一部又は全ての機能が損なわれている状態をいう。

なお、支承ローラーの脱落も対象とする。

また、落橋防止システム（桁かかり長を除く。）の有すべき桁移動制限や衝撃吸収機能などの一部又は全ての機能が損なわれている状態をいう。

### (2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評 価 の 目 安	区 分
損傷なし	a
支承の機能が損なわれている 支承の機能が著しく阻害されている	e

(例)

<p>損傷区分a</p>  <p>支承のアンカーボルトがゆるんでいる</p>	<p>損傷区分a</p>  <p>沓座モルタルのみに損傷が見られる</p>
<p>損傷区分a</p>  <p>支障が腐食しているが著しい機能障害とは言えない</p>	<p>損傷区分e</p>  <p>土砂が堆積し移動機能が損なわれている</p>
<p>損傷区分e</p>  <p>支承が浮き上がっている</p>	<p>損傷区分e</p>  <p>支承が壊れている</p>



### ⑬ 沈下・移動・傾斜

(1) 一般的性状・損傷の特徴



下部工が沈下、移動又は傾斜している状態をいう。

(2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
沈下・移動・傾斜のいずれもない	a
沈下・移動・傾斜のいずれかがある	e

(例)

損傷区分e	損傷区分e
	
下部工が沈下・傾斜している	下部工が移動・傾斜している

⑭ 洗掘

(1) 一般的性状・損傷の特徴


基礎周辺の土砂が流水により洗い流され、消失している状態をいう。

(2) 損傷程度の評価区分

確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
洗掘はない	a
基礎が流水のため洗掘されている	c
基礎が流水のため著しく洗掘されている	e

(例)

損傷区分c	損傷区分c
 <p>下部工が洗掘されている</p>	 <p>下部工が洗掘されている</p>
損傷区分e	
 <p>下部工が著しく洗掘されている</p>	